

光徳だより 臨時号

令和6年 9月
京都市立光徳小学校
校長 田村 竜一

令和6年度 学校教育アンケートのご報告（1学期）

今年度も大変暑い日が続いています。平素は本校の教育活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。7月に実施しました学校教育アンケートの結果を分析し、今後の改善点や推進すべき点について考察いたしました。ご報告をさせていただきます。

学校教育目標

『自ら学び 自信と誇りをもち 共に高め合う子の育成』

～かしこく やさしく 元気よく～

本校では、学校教育目標を『自ら学び 自信と誇りをもち 共に高め合う子の育成』～かしこく やさしく 元気よく～とし、めざす子ども像を、「自ら学び よく考え 学び合える子」「心やさしく ひとを大切に作る子」「明るく元気で たくましい子」として進めています。今年度は、問題解決力、コミュニケーション力の2つの資質・能力を重点目標として育成すべく、3つのプロジェクトのもと、進めています。

一つ目、知プロジェクトでは「自ら学び よく考え 学び合える子」を目指しています。スキルアップ学習の取組を通して、主体性の育成を目指します。このスキルアップ学習に進んで取り組むことで、児童の「調べてみたい」「考えてみたい」という気持ちを高め、主体性をもって学習に取り組むことができる子を育成します。

二つ目、徳プロジェクトでは「心やさしく ひとを大切に作る子」を目指しています。ひとを大切にするとは、「相手の存在を認める」ことから始まると考え、「いつでも誰にでもあいさつができる」とことと「人の名前を覚える」ことの取組を通して、ひとを大切に作る子を育成します。

三つ目、体プロジェクトでは「明るく元気で たくましい子」を目指しています。進んで体を動かして遊んだり、多様な遊びを考え実践したりできる子の育成をするべく、今年度は、中間休みとスキルタイムを合わせたロング中間休みを設定して体を動かす時間の確保を行うことと、遊びの提案を委員会を通して発信したり、遊び道具を増やしたりすることで、遊びの楽しさを伝え、元気でたくましい子を育成します。

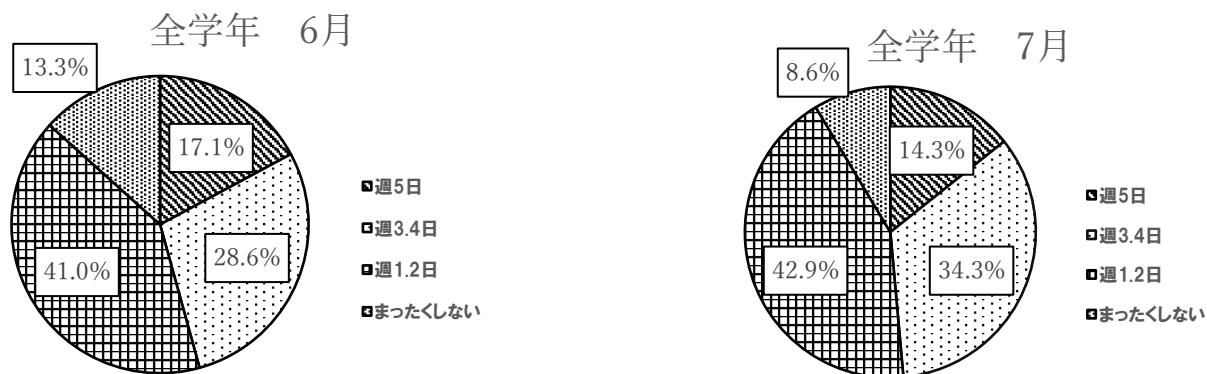
学校評価においては、3つのプロジェクトの取組による保護者の方から見た児童の現在の様子を知るとともに、2学期以降の取組に反映すべく質問をさせていただきました。

分析をした内容をお伝えさせていただきます。今後の学校教育にも、保護者の皆様のご協力をいただきながら、進めてまいります。最後になりましたが、アンケートにご協力いただきました保護者の皆様、ありがとうございました。

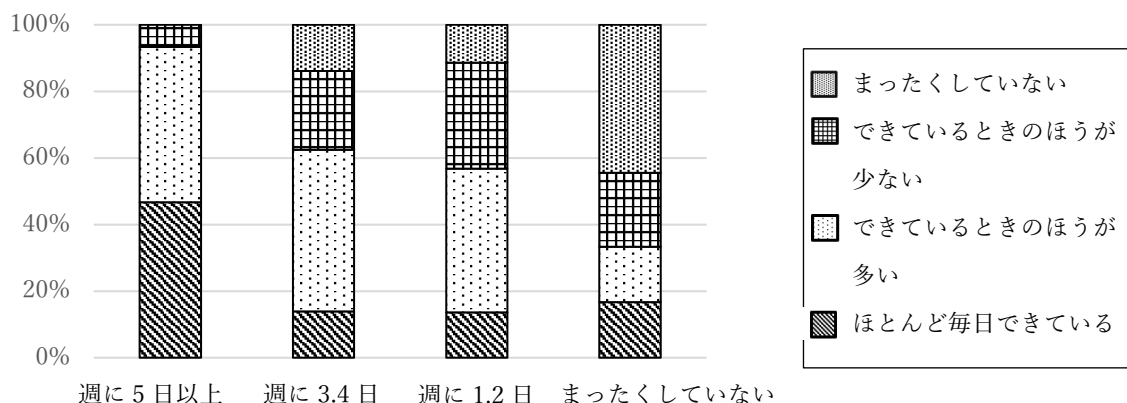
〈知プロジェクト〉

知プロジェクトでは、児童の主体性を育成するために、主にスキルアップ学習に取り組んできました。月に1回のスキルアップ学習交流会では、友だちの学習のいいところを見つけたり、アドバイスをしたりしながら、自分のスキルアップ学習に生かそうとしています。

児童の学校アンケートでは、「先生やお家の人、習い事の先生など、ほかの人に言われたこと以外の学習をしている」かどうかを尋ねました。それに対して、「まったくしない」と答えた児童の割合が、13.3%から8.6%と、4.7%減少しました。「週5日以上取り組んでいる」「週3.4日取り組んでいる」と答えた児童の割合を合わせると、6月から7月で45.7%から48.6%と、2.9%増加しています。



また、『先生やお家の人、習い事の先生など、ほかの人に言われたこと以外の学習をしている』ことと、『自分が「やりたい」「やろう」と思ったことに、最後まで粘り強く取り組むことができる』ことの関わりを集計すると、特に週に5日以上自分から学習に取り組むことができる児童は、週に5日以上自分の「やりたい」「やろう」と思ったことに対して粘り強く最後まで取り組むことができる割合が高くなっています。1学期の取組を経て、**自分から課題を見つけ、学習に取り組むことができる児童は、自分の「やりたい」「やろう」と思ったことに対して粘り強く最後まで取り組むことができる**ということがわかりました。



これらの結果から、やはり **児童自身が自分から課題を見つけようとする意識を高め、わからないことや知らないこと、興味のあることを自分で調べる力を育成することが大切**だとわかりました。

2学期からも次のように取組を進めます。

① 家庭学習計画表の作成を継続

② スキルアップ学習の継続…めあてとふり返りを必ず書くことを徹底

(なぜ、そのようなめあてで学習しようとしているのかを明確にするため)

③ スキルアップ学習を他学年とも交流

保護者の方には引き続き、

○ その週にどのような計画を立てているか

○ 計画を実行することができているか

○ スキルアップ学習のめあてとふり返し

○ 自分の課題や興味が学習につながっているか

これらのことを確認していただければと思います。ご協力よろしくお願いします。

文責：森本 真緒

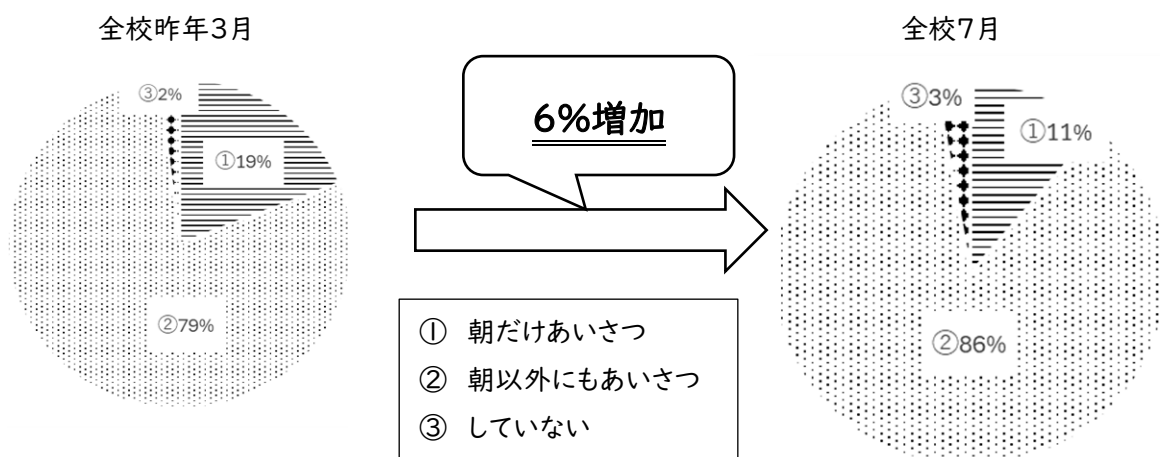
〈徳プロジェクト〉

「いつでも」「だれにでも」あいさつのできる子、同じ学年の友達はもちろん、他学年の友達や学校の先生の名前を覚えて学校生活の中で、名前を呼んで関わりのもてる子の育成を目指し、取組を進めてきました。

「いつでもだれにでもあいさつのできる子」

1学期の取組を通して、朝のあいさつに関して校内はもちろん、校門などさまざまな場でも子どもたちのあいさつをしている姿が見られるようになってきています。先生はもちろん朝のあいさつに立ってくださっている保護者の方や警察の方にもあいさつをしている子どもの姿がたくさん見受けられるようになってきたのは、計画委員会の子どものあいさつ運動や、朝会でのあいさつ表彰、あいさつレベルアップシートを使った取組の結果と考えられます。

また、学校で行った児童アンケートでは、朝以外にあいさつをすることができるか尋ねました。それに対して「朝以外にあいさつしている」と答えた子どもの割合が79%から86%に増加していることが分かりました。このことから、あいさつをしようという子どもたちの意識の高まりがうかがえます。



「他の学年の友達の名前を覚えて学校生活の中で関わりを広げよう」

一学期の間、主にたてわり活動の中で名前を覚える取組を進めた結果、たてわり遊びや掃除の時間の中で6年生を中心にお互いの名前を呼び合いながら活動している姿が多く見られるようになってきました。毎活動後に行うふりかえりでも「〇〇さんのほうきがとても上手でした」など同じ班のメンバーの良さを伝え合い、関わりを深めてきました。さらにたてわり活動後、各クラスにて「たてわり班のメンバーを覚えたか」と尋ね変化をみとってきました。

たてわり班のメンバーを1人しか覚えていない

1年生…44% → 21%

2年生…32% → 18%

たてわり班のメンバー全員覚えた

5年生…4% → 15%

6年生…20% → 25%

上記の結果からたてわり班のメンバーの名前を覚えている児童は確実に増えています。

2学期からも次のように取組を進めます。

- ① 計画委員会の子どもによるあいさつ運動の継続…子ども間同士でのあいさつの広がりねらう。
- ② あいさつレベルアップシートのさらなる活用…子ども自身のふりかえりと周りからのふりかえりで定着を図る。
- ③ あいさつの見本動画作成…誰にでもあいさつをする具体的な様子を動画にし、低学年の見本とする。
- ④ たてわり活動の継続…遊び・掃除・読聞かせ・全校遠足などの活動を通して子ども同士の関わりを広げていく。

保護者の方には引き続き、

○朝のあいさつ含むさまざまなあいさつを促す声かけ
にご協力ください。よろしくお願いします。

○たてわり活動などの様子を話題にする

文責：金田 織絵

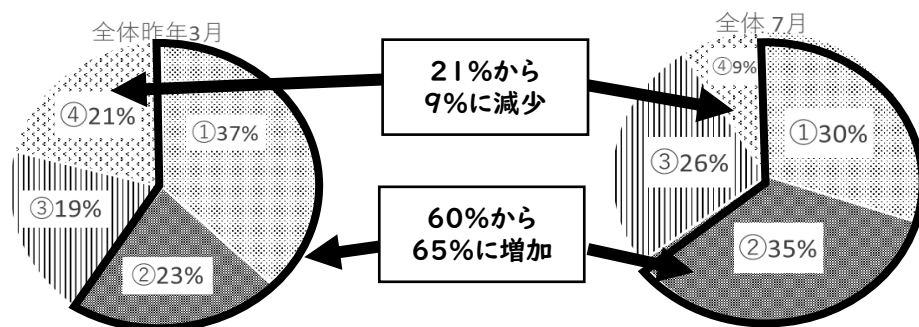
〈体プロジェクト〉

体プロジェクトは、子どもたちに体をいっぱい動かして遊んでほしいと考えています。そのために、運動場で遊ぶ用具の貸し出しや休み時間の体育館開放、ロング中間休みなどを設定し、子どもたちが進んで体を動かして遊ぶことができるように環境の整備を行いました。

その結果、このように変わりました。

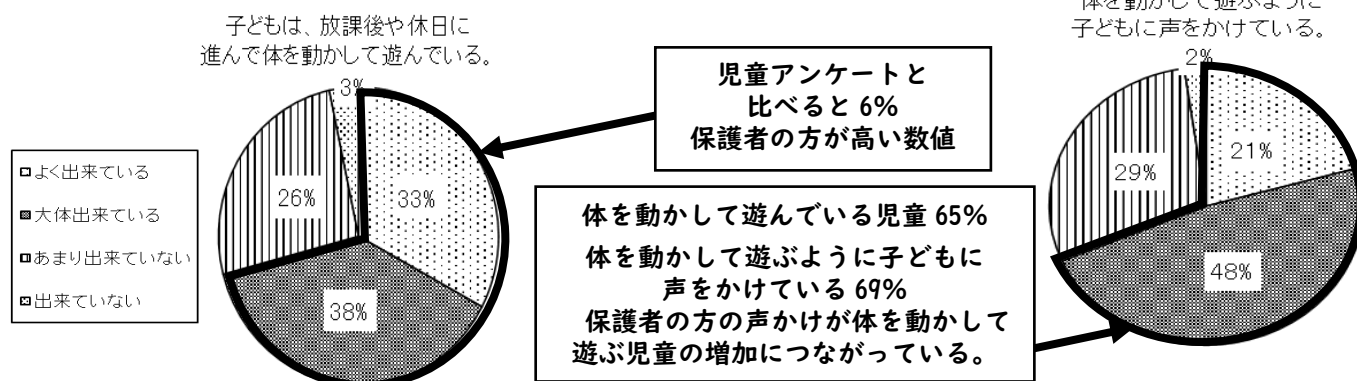
児童アンケート体を動かして遊んでいる児童

- ① 週に 5 日いじょう している。
- ② 週に 3・4 日 している。
- ③ 週に 1・2 日 している。
- ④ まったく していない。



これは休み時間に遊ぶ用具は昨年度まではドッジボール、ドッジビー、大縄跳びでしたが、今年度からバスケットボール、ソフトバレーボール、フラフープを使用できるようにしたこと、また、「ロング中間休みや体育館開放」を行ったことで効果が出たと考えられます。

保護者アンケートの結果からは、次のようなことが分かりました。



今年度の夏休みの課題として出した、なわとびカードでは、どの児童もよく頑張ったことがうかがえました。これは、子どもたちはもちろん保護者の方の声かけがあったことや子どもたちと一緒になわとびをしてもらった結果だと感じています。

また、子どもが多様な動き(走る・跳ぶ・投げる)を習得していくことで体の使い方が大きく変わってきます。さらに日中、体を動かすことで体力の向上や体の成長(体を動かす→つかれる→早く寝る→体の成長)にもつながっていきます。体プロジェクトの取組を通して、ご家庭と学校と一緒に子どもたちの成長を見守っていかれたらと考えています。

2学期からも次のように取組を進めます。

- ① 新しい用具の紹介…運動場(ローリングペダル) 体育館(バトミントン)を用意して遊ぶようにします。
- ② 委員会からのなわとびの取組…なわとびを使ったイベントの開催 大縄大会の実施
- ③ なわとびカードの継続した活用…月末のなわとびカードの確認を行い、目標をもって取り組めるようにします。

これまでのなわとびカードの取組で子どもたちが継続してなわとびに取り組み、跳べる回数も増えてきたと感じます。できることが増えた時や記録を更新した時の子どもたちの姿は本当に輝いています。そんな児童をたくさん増やしていくために教職員一丸となり取り組んでいきます。

保護者の方には引き続き、

○体を動かして遊ぶような声かけ ○規則正しい生活

の継続にご協力ください。そうすることで、さらに子どもたちの成長につながります。ご協力よろしくお願いします。

文責 中本 優